

正門付近に本校のシンボルツリーとして凛と立つ落葉樹の「メタセコイア」。高木ゆえ、鳥たちの巣作りにはうってつけの大木ですが、主にカラスが巣作りをしているようです。今月初旬から色づき始め、いよいよ葉が散るときを迎えました。青々としているときも、紅く色づくときも、周辺環境に彩を添える大木として風情豊かではあるのですが…。

大変なのがその落葉の掃除です。とくに風が強いときなどは、どんどん“降って”（落ちて）きます。早朝の掃除は一苦勞ですが、放ってはおけません。玄関を綺麗にして生徒やお客様を迎えなくてはなりませんから。来月の半ばから美化委員の生徒が掃除をしてくれることになっています。自然への感謝の気持ちを持ちながら掃除をしてくれることを願っています。



「正しい努力」とは…

先日、本校のホームページでも紹介しましたが、「将来、映画製作に携わってみたい」という目標を持つ高校3年生の女子生徒が、映画監督の古新舜さんから ZOOM を介してアドバイスをいただく機会を得ました。30分という限られた時間の中でいただいた言葉は、非常に得難い貴重なものでした。そこで、進路実現にはどのような努力が求められるのかという古新さんの言葉に、私の想いを加えたいと思います。

「どうしたら自分が望む進路が実現できるのでしょうか」という生徒の質問に対して、古新さんは大きく2つのことについて回答したのだと聞き取りました。1つは、これから先、どんな場所だったら自分が成長できるのか、ということです。古新さんは、「この大学（あるいは専門学校）に行きたいと決める前に、何をしたいか、自分がどの場所にいたら成長できるかについて考えることの方が先決ではないか」と生徒に問いかけました。おそらく、どの大学や専門学校（国内や海外問わず）で学ぶのかということが問題なのではない。なりたい職業に就くときに自分に必要とされるスキルは何なのか、そして、そこに向かうためのマインドが整っているのか、それが理解されていれば行くべき場所が見えてきますよ、ということなのでしょう。まず、自己分析をすること。強みは何？ 弱さは何？ 望む仕事に就くために何を鍛えるの？ ということなどの自分について丁寧に“知る”作業が必要だということなのでしょう。最近、“メタ認知”という言葉をよく耳にします。それは、自分のことを俯瞰視することです。このメタ認知が必要だということです。

2つ目は、学びたい場所について、自分の力できとことん調べましたか、ということです。古新さ

んは「インターネットで調べたり、先生などから情報を得たりして、その大学のことを知った気になっていませんか」と生徒に問いかけました。また、「私だったら直接その大学に問い合わせしてみます。海外の大学だとしても、拙い英語力を駆使して受付に問い合わせます」とも言われていました。まずは相手を知ること、しかも、自分事として捉え、自力で情報を獲得しなければ意味がないということと言われたかったのでしょうか。「他者を頼っていると、自分の芯の部分の育てることはできません」とも言われていました。正にその通りだと思います。労苦を伴うことで自信がつくでしょう。そのことがやがて成長につながるようになるでしょう。学ぶ場所はいくらでもあります。そこから自分の学びに相応しい場所を選択するのは自分の想いのみです。

古新さんからいただいた高校3年生へのアドバイスですが、これは受験生には必見の内容であるはずですが、また、我々教員をはじめ、保護者のみなさまにも是非とも心得ておきたい内容だと確信します。

“自分を知る”“相手(学ぶ場所)を知る”こと、すなわち、自分のことは自分ですということは基本です。ほぼし終えたと感じたら不足部分を他者に問うてみる。こうしたことが後々の成長へと必ず結びついていくことは疑いのないことです。それが「正しい努力」なのだろうと思います。

心細げにしている生徒を前にして、つつい“転ばぬ先の杖”を用意したがるのは人情というもの。しかし、ややもするとそれが成長の妨げになっていることにも周囲の大人は気づかなくてはなりません。古新さんからいただいた言葉は、我々大人への貴重な助言でもあるのです。